

日本脳炎ワクチン予防接種説明書

〈日本脳炎の予防〉

日本脳炎とは？

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。人から直接ではなく豚などの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症例を示す急性脳炎になることがあります。ヒトからヒトへの感染はありません。

日本脳炎ウイルスに感染した人のうち100～1,000人に1人が脳炎等を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の致命率は約20%～40%ですが、治った後に神経の後遺症を残す人が多くいます。

日本での患者発生は西日本地域が中心ですが、日本脳炎ウイルスは西日本を中心として日本全体に分布しています。

日本脳炎は、以前は小児、学童に多く発生していましたが、予防接種の普及、環境の変化などで患者数は減少しました。最近では高齢者を中心に患者が発生していますが、2015年には10ヵ月児の日本脳炎確定例が千葉県から報告されています。また、2016年は高齢者を中心に報告がありました。報告数が年間10人を超えたのは、1992年以降で初めてです。

接種について

ペロ細胞と言う細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し（不活化）、精製した物です。沖縄では、ウイルスを媒介する蚊が多い事から、生後6ヶ月からの接種を勧める場合がほとんどとなります。

区分	対象者	標準的な接種期間	回数	間隔
第1期 初回	生後6ヵ月から生後90ヵ月（7歳半）に至るまでの間にある者	3歳に達した時から4歳に達するまでの期間	2回	6日以上 （標準的には6日から28日まで）
第1期 追加		4歳に達した時から5歳に達するまでの期間	1回	初回接種終了後6日以上 （標準的にはおおむね一年を経過した時期）
第2期	9歳以上13歳未満の者	9歳に達した時から10歳に達するまでの期間	1回	接種が可能な年度になりましたらお知らせが届きます。

副反応について

医療機関から副反応の疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は、0.00073%です。

日本脳炎ワクチンの特例対象について

日本脳炎の予防接種後に重い病気になった事例があったことをきっかけに、平成17年度から平成21年度まで、日本脳炎の予防接種のご案内を行いませんでした（いわゆる「積極的勧奨の差し控え」）。

その後新たなワクチンが開発され、現在は日本脳炎の予防接種を通常通り受けられるようになっています。このため、平成7年4月2日から平成19年4月1日生まれの方で、4回の接種が終わっていない方も、4歳以上20歳未満の間に、残りの回数を定期接種として受けることができます。

接種回数・間隔は小児への接種の際と同様とし、第2期は9歳以上の者で第1期接種を受け終えた後、6日以上の間隔をおいて接種します。

定期予防接種お問い合わせ先：竹富町役場健康づくり課 TEL：0980-82-7519（直通）